

2022 度 全国高校サッカー選手権を終えて。

夢の新国立競技場で夢のような試合を経験することができた。岡山学芸館高校サッカー部の全国高校サッカー選手権大会の初優勝である。

私は2022年3月末、45年間、務めた東海大学福岡高校（第五）高校を退職。

同時期に教え子である岡山学芸館高校サッカー部の監督より「一緒に日本一を目指しましょう」との誘いを受け、単身で岡山に生活の拠点を構えた。

2022年4月1日に挨拶に岡山学芸館高校サッカー部員と対面し4月6日より練習に参加、といってもグラウンドのピッチ内にはほとんど入らず、タッチ、ゴールライン外から選手、練習を観て気が付いた点を個人、チーム全体に話すことに徹底した。

誘いを受けた時点で総監督でとの話しがあったが監督が今まで築いた城（チーム）なので私は城に入らず外からアドバイスをする役を受けた。

最初に監督に伝えた徹底して欲しいとは、フィジカルトレーニングの強化をお願いした。タイミング良く新しいトレーナーが付いてくれることになっていた、この方が最高に信頼できるトレーナーであったことも、今回の大きな勝因の一つである事は断言できる。

確実に選手たちの筋力アップ（パワーアップ）につながった、選手権大会での学芸館の選手たちの球際の強さ、体力が証明している。

チームの練習に初めて参加した際に思ったことは個人スキルに於いては高いレベルであった、既に速い展開を目指しているチームであった。そこは学芸館高校サッカー部監督と私の目標とするサッカーイメージと相違はなかった、したがって取り組みはスムーズにいった。

インターハイ予選を勝ち抜き岡山県代表として全国大会に出場したがベスト8で敗退した。また年間を通して中国プリンスリーグ戦を闘い、結果的にはこの6引き分けが、このチームを強くしたと私は思う。このことは選手権の戦いの前にミーティングで6引き分けの価値を選手たちに話しをした。

大会期間中は毎会、ミーティングの最後に選手たちに話をする時間を頂き今までの経験を活かして、サッカーに於けるセオリーを徹底して解き、いろんな経験の中からモチベーションアップに繋がるように努めた。

学芸館の勝因のもう一つには選手たちが素直で明るく笑顔が絶えない集団で、オン・オフが確りできていた。

一人ひとりが試合に勝ちあがりながら逞しく成長していった。ベスト8に勝ち上がった時点で上手く行けば彼等はやってくれそうなどという予感がした。彼らもまた自信に満ち溢れていた気がする。

トーナメント試合の勝ち上がりで、ここまで成長していくんだと彼らに教えてもらった大会であった。

最後になりましたが大会期間中の年末年始の休みの中、練習を日体大サッカー健志台グラウンドをお借りしました、気持ちよく調整が出来たことも勝ち上がることができた要因でした。矢野監督をはじめコーチの方々に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、日体大サッカー OB として母校のグラウンドで練習を行い優勝できたことも感無量です。

学芸館高校サッカー部 ゼネラル・アドバイザー

平 清 孝